



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第2号
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77408
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。郊外（ツツキ）、市域決定調査項目）、都市の群衆、贈答救済の関係。
File Information	N005_01S28.pdf



[Instructions for use](#)

SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社会史

二十八年版
寺野の葛美架
才四卷才二号

交野外(少年)市域(未定)老项目
都市の群集
野琴校(新)国仔



独立税区に特殊なあり。市域の
島はもとより社会関係の集積体には
ならないが、郊外には常に集積体として
存してきてし今に至る程である。そ
こに郊外の特殊性がある。

これともしくと都市の外周にみる可成

る通勤圏は独立した集積体として

の独立した生活共同体を有して居る。

市域と郊外との境界を劃する事は

不可能であらう。社会関係の方向の異

及ぶ飛居の回をてある、この既的の集積

体がある。

生活協同体所屬決定のための調査項目を考へて必要あり。この項目については
ライパンコミュニティ所屬決定の場合と同様
に戸別調査するべきである。

一、あなたのこの役職は行政上どの市町
村に属するか。
公式上少くも親知の市町

一、行政上の規定を不便を以て他の市町村に
便渡上関係する事ある事か。お供の事
等の事か。しつこい。

一、左の商名はかゝる品に未だあるか。

米、味噌、醤油、野菜、肉、魚、酒

パン、バター、茶、電気、林、ローソク、

うどん、

薪木炭、マツ、造り石炭、七条腕

著、千り紙、葉ホリキ、道具、求具

以下宋教、人として同じに思ふ所の事あり。

一 医書、教友、お見立、大工、墨、我同、牛紙、紙

一 子供のよろこび (勤め先) 教員、クマフ、

一 教員、娯楽のめん行く先、映画館

一 不孝の娘 ホリキ、どこの人か、おはけ、人

一 一ヶ月間の来寄、宋後の各人に送る、此よ

一 所長、息はとこに行くか、電報、お精、婢をばと

一 衣孔は、おこ、おまよか、本は、おは、机は、飾るは、

一 あなを、事の行くやれ、勤め先、教員に

一 集まり、人は、大抵、おこ、この人、おまよ

一 近所の人、おまよ、おまよ、おまよ、命、お換、おまよ、おまよ

一、親戚はどれくらいか、行方事をする親戚

はどうか。この地に住んで何年になるか

一、非常に親しい友人があるか、どこに、

どうして知るか。

一、どの放送局のものを最もよく聞か

どの新聞をとっているか。

者の様子を往々問う答へに「もうも生活か」との疑問

の応へどの程度のものかよく分るといふ。部

外と郊村では自か、相異なある。

都市の周辺における生活の存在関係と

周辺における生活関係の独立後の親

戚はどんな調査しても破れはみかき

○ 解答は、托けと都市的と曲線的

凡そ人の此の過程は物或は此の此の

臺灣、代恩、徳意の物系である、

水、海、海、此の此の此の此の

① 五、此の代恩、徳意の物系である、

近代の都市の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の

此の此の此の此の此の此の此の



多い。喜しい女みたれ物に驚きかへ均全

かふ。喜しいを強つので平。云はは

女かへ 上かへ 下へ かへ かへ

よふふいのもふ。これに返しと都市に

おけ。贈物は反対給付な予あふれ

片。物やカービスを返けたるに

反対給付として謝禮として感謝のため

返禮として贈りぬ。又当然反対

給付として返禮のためカービスや物を

け。ために贈らす。受けよためにかへ

て予。ワイは 女あり傳は記て 反 た 禮

のため又は喜けるために贈らる。か

都市に預け。贈り物は下から上へ

場合な多つ。曲おにたつて満ちてた人

喜悅して片の人かたつてのたに對し即ち

此は求めしものあり人おしるは此の勝なり

求めしものあり人おしるは此の勝なり

よんふふ。即ちては受けし又は受

けたるにふふ。人から受けたるは此の勝なり

曲おにたつて満ちてた人

分にしそんたよろここの様子をまた

場合にふふ。承いふには甲乙てん

ふへたのに對して乙が甲にふふの

合ふ事ありてふふ。てあふから終集

かう足れは是のるを給付は去期に

遷都すまふすまふとありけり
行けり。都事正は受けた思義に

対しては短部にて済しやうとする。五

百何位業子の事を受りたるは五百何位

の事世よりたへて返す。此の時法

古女世より左に区別礼す。物令もある。

中村にけそんたう物はたうは公に中村に

そんな意味での等儀物物の区別は

あはれ。能く中村にけそんたう

片の物令かまう。区神にほし鳩の羽

や南天の葉を用ひしはかばすまふ下

を北うつて女才にて返すまふすは

あつ。到はは去期る清である。まふす

返神と云ふこと
多岐多岐の事

女自かうな。感謝の表紙の形式化して

ものであろうか。^{その他の}返神を形式化

レエ片、都市で^{返神}感謝の心は

余り存した。返神に^{返神}山場の明使

や南天の書を^{返神}用ひて^{返神}作

感謝の心か^{返神}

よく字の^{返神}はあるか。返神の

増印は形式的^{返神}。然し形式的

に^{返神}返神の増印^{返神}の^{返神}

事^{返神}の^{返神}あ^{返神}う^{返神}わ^{返神}。字^{返神}返神を^{返神}

に^{返神}行^{返神}し^{返神}時^{返神}比^{返神}女^{返神}あ^{返神}う^{返神}を^{返神}は^{返神}へ^{返神}れ^{返神}な^{返神}い^{返神}。

返神^{返神}に^{返神}金^{返神}を^{返神}あ^{返神}へ^{返神}り^{返神}白^{返神}紙^{返神}を^{返神}あ^{返神}へ^{返神}

う^{返神}す^{返神}と^{返神}ころ^{返神}女^{返神}の^{返神}は^{返神}、^{返神}都^{返神}市^{返神}か^{返神}う^{返神}事^{返神}え^{返神}

流行^{返神}の^{返神}遺^{返神}物^{返神}に^{返神}あ^{返神}う^{返神}り^{返神}あ^{返神}。#^{返神}

都^{返神}母^{返神}の^{返神}書^{返神}が^{返神}都^{返神}市^{返神}より^{返神}中^{返神}村^{返神}へ^{返神}移^{返神}る^{返神}

新^{返神}文^{返神}と^{返神}あ^{返神}る^{返神}程^{返神}に^{返神}あ^{返神}う^{返神}り^{返神}あ^{返神}う^{返神}

事^{返神}へ^{返神}れ^{返神}は^{返神}返^{返神}神^{返神}の^{返神}形^{返神}式^{返神}に^{返神}都^{返神}市^{返神}あ^{返神}う^{返神}

流^{返神}入^{返神}し^{返神}る^{返神}を^{返神}流^{返神}行^{返神}に^{返神}あ^{返神}う^{返神}り^{返神}あ^{返神}う^{返神}。

○ といふ向都市では常に区被るべきであらう

○ 期付する中井では女への区被るといふ

○ 性質が異なる。静都市では

○ 対等の関係^{人との区被る}を招発的に感じている。

○ かうであるし又感^いわゆる区被る。

○ 中井では上より下への区被るが区被る

○ 中井から上への区被るに区被るの

○ 区被るは^{下か上への}区被るの形であり区被る。

○ 封建的な上下の關係が愈々加はる。

○ 区被る。 ^{区被る} ^{区被る}

○ 都市の区被るは公的の又は権威の伴

○ はない。区被るといふ区被る。

◎人の心の執着は公認された素
務の範囲内においてもプロフェッショナル
な人はよく知るところ。その中、年々加
減である。

● 素直な医者の物を贈るのは感謝の

● 場合もある。又医者のサービスもある

● 減心減意である。それを求むるはあり。#

● 受け取らぬ。又サービスの又減心減

● 意にならぬ。あるいは予てからである。◎

● にも拘らず医者のサービスも期待程

● ではない。考へた場合には患者は怒る

● であらう。彼と自分と同等の人向

● である。彼に贈る。知るところにその礼

● のりをしてもらう。あるいはある。

● 医者に感謝して贈る。そのほ

● ち、その職責以上のサービスは自分の



や好む

加減に對して、都率の正確は重要なる

加減の正確の公式の支配拂いの

の外に午のつとや、（？）の考案と

思ふに、（？）又かゝる

如く又のつとや、（？）の考案と

や、（？）の考案と

に、（？）の考案と

悪く云へば、ワイドであり、よく云へば

新の多持ちの考案とあり、

新の医師に對して、（？）の考案と

新の官に對して、（？）の考案と

よく云へば、（？）の考案と

よく云へば、（？）の考案と

よく云へば、（？）の考案と

○ の新ん坊を抱いて来たやたら、あつて

○ その知人の山から菓子箱をもらつて来た。

○ これは純粹の謝禮である。比好し

○ 圓のあつて、可しと云つて、将來にわたる。

○ 昨年のお金を助けてくれた、お父さん

○ す。謝禮は都率の生活に多少のいざ

○ らう。

○ けれど、お母さん、お父さん、お母さん

○ のお母さん、お父さん、お母さん

○ のお母さん、お父さん、お母さん

○ だ。又生活内容の單純と複雑

○ だ。お母さん、お父さん、お母さん

からのめりて好むや悪むの年加減は
他人の心の移る同様の心で好むか
と考へて同様の心で取扱同様の
機同様の心で思ふね。故に

機同様の心で同様の心の大がかりの
機同様の心で同様の心の大がかりの
機同様の心で同様の心の大がかりの
機同様の心で同様の心の大がかりの
機同様の心で同様の心の大がかりの

なく、善悪の引と回さうなへ。
然しこれより好むのは人の好むや
悪むの年の減本人の善悪の
内にあるわけよ。故に

他人の心とよいかい念に今現れむ機同
の心の移物は念の善悪の引と回さうな
念には悪むかのそよ。故に

○ 善むて同様の心は早く善悪の引と回さうな
清しと善むいと、何れ自分か相手か
好む可むと知れぬし又又自分や地

○ 善むの移動も善むか悪むか、早く善悪
の引と回さうな、何れ自分か相手か

○ 善むの引と回さうな、何れ自分か相手か
の引と回さうな、何れ自分か相手か

○ 善むの引と回さうな、何れ自分か相手か
の引と回さうな、何れ自分か相手か

○ 善むの引と回さうな、何れ自分か相手か
の引と回さうな、何れ自分か相手か

○ 善むの引と回さうな、何れ自分か相手か
の引と回さうな、何れ自分か相手か

○ 善むの引と回さうな、何れ自分か相手か
の引と回さうな、何れ自分か相手か

他人の新断によつて行けぬものに

対して忠告に任せ、結果は捨行か

他人の新断に先立つて行ふ。他人に

忠告しては度了りかあつたかたは

可なりと上り申す並みの任事を

担任せし捨行か教へて行ふ。

都立としさう云つたのはなつた

他人の新断が優先的に行はれ

はるゝ。

即ち都立の野物はより多く全理院の

多し、即時片償の反対給付を認め

認められ、下より上への野物かた

我々はより多く成積的に行き、期区社と関係

か認められ、上より下への野物かた

事の野物は各野立の進み、野立の者か

野立野立の進み。

いあうう。多定三の独立性は破るための
必要あり。これ物す生活協同体の既
急は更なる必要あり。必要あり。

生活協同体の輪廓に本部の境を
てある。これ不可破の事なり。本部
の不可破なり。

外部

4
都市景観区分等

都市の景観を構成する建築物は、その
の略称である。

一、住宅（独立住宅、長屋、集合住宅、アパート、高層）

上、上級、中級、下級住宅

二、職場建築物（工場、役所、銀行、学校）

三、パト、高層

三、公共建築物

（屋外設備）

1. 娯楽休養のための（公園、球場）

競馬、競輪場、花場

四、交通のための（鉄道、乗車道、橋）

渡止場、駅、飛行場

八、娯楽、休息のための屋内設置（娯楽）

図書館、劇場、公会堂、

病院

以上の取組見の上では一と二が大部分で

三は殆ど同じになり、その公衆利用度の

高いのが市民生活に強い、国心の対象となつて

居る。けわい都市景観の上では三は数少ない

上に多くは散在して片が中心要素とほゞはわらぬ。

景観の意味で重要な内矢此、任所と職

あり。従来試みられた景観区分は、

任所及び職場による区分づけられ居る。

上流住宅地、中流住宅地、下流住宅地は、

官街他帯

居郷の種別地は分れつき、工場地帯、高

業地帯、は職坊による。区、オビの街、商

店街、銀行街、茶屋、職坊による区分である。

凡そこれ等の地区は区別されるのは、そこに

に集まる、つまり交通物が皆大抵、共通な

様式や規模のものである。又、そこに

集まる人々の服装や態度も大抵、共通

な傾向を認められるからである。住居による。

区、^{上中下の}三層が見られるのは、社会階層の

三つの段階を呈する水色の生活形式を呈

して見ようを意味している。下層市民の

住居地帯は一軒の上級階層の市民を

片位了事は、色々の不物や不便がある
此等の圧力がある。これゆへに永住出来なくな
るのである。上流住宅地帯の一戸の下級市
民の片位も同様に去くは出来なくな
るのである。

都市の御強めにかけし生活には貧乏もなく
富もなく皆一杯に平時を過すの力に成り
て自由に対面して片位のできよが、都市の
市民もその生活の結果に成れば、もうそ
んな自由もしては行かないが好い。

同一住宅階層の者の住宅地帯 ~~の~~ 中
特に興味多きは、大企業者の社宅街

家蘭の社交街 佐治君幸福

である。本来大企業家の社交街はその
企業主か、又は職員に可及温厚主義
のためである。一は企業効率の向上のため
にあり、二は、故に企業家の側より
の嗜好である。世のため又生活監視のため
に色々の多様な^{社会的的の役所}の係りがある。また、
家蘭の社交街の係りである。
高知位社交街に於ける生活は、たゞかに
一つの団体である。高知位。高知位は、
堀が互いに一城をオウする。各々深く
秘められた生活の垣なくして居る。やが
をねぬ近隣の交り、互いに女中を

同志

同志

通いこすを運ば、主人はおろか、奥をまわ
るゝに接す。と云ふ事なきは、寧ろ滑稽と
す。この界隈にはたかにかに一つのふんいきが
有し、門構に此形式こそ異つても昔通なも
のかあり。

すべし、使居地帯に於ける相違は、此の階
層に於て、相違あり。

勤勉な中か高き志か、事業所と住居を
一つにして居る活動的な地帯に、一つの村
殊のふんいきあり。商店としての構へや
未だのよつて混雑して居る、晝間のふんいきも
特色を以て、片よか、朝早く又日か、暮れて

この地帯にも高等教育の居住地としての
特色がふんじられて居る。位近所の小
店員を多量に持つ片は、男院にはこれ
等の位の小店員のつくり出し、片は活発的
な空気を持つ片も。

富の積及、かうすは、小高者とは、サリマンの
中位又はそれ以上に相対する、であるが、生
活程度は、むしろサリマンはより高、とい
えよう。同一収入の、より多くは、高、とい
えよう。彼人は生活程度は、高、である。職業
の相対、本人の生活の利便を、田舎な、とい
えよう。故に、都市景観、とい

職業の異同にもよるのみならず、可成り互
に。工業地帯、商業地帯、官庁街地
帯、遊樂街地帯が並んであり、これ等の
地帯もそれぞれ異なる建造物によつて
一見して相違が分るを考へ、その中のかん
念を拂成して、その人の住居にもそれ
分る特色を配せられ、職業の相
異も人の生活様式を制する事は
實の程よくさうすものと同様である。
よわく、地帯における人の生活は職業
によつて、然るを要請される所。
都市には群集形成の場所が多数

存在する。才不又街に於ける群集は
工場地帯に於ける群集とは異なり、不
規則性を示す。都市住民の経済的
地位は一般的に他人的である。中
は衛生的に於ける群集の団体である。か
かる如き経済的団体は、街路は
停車場、商店とか都市教養街に
於ける群集である。住居地帯や
官庁街に形成される群集は、
即ち之の群集の大部分が市民の地位
を占め、他は外人の地位を形成する。
市に群集である。しかし都市をもつと

學智は

し代表しやすに群集であつてその群

集は社人による群集である。けれども

市民の内でも他の自分の居る居住又

は職業による地帯の外の地帯に在

れば、市民も社人の安んをかき感ずる。

かくの如く他地帯の市民も集まる。

群集は社人等の群集と同様のも

のとならやす。と云ふことは地帯の

制をよめるもの本都市の住民に

やはり幾分働くものである。と云ふ可

要之都市の景観区別の整理をなす

ものは居住と職業とあり、居住にも

職業として、若手の職界新をもつて居

るものは、階級に依る成層の別が、階級

階級は、階級に依る生活能へるを制して居る。此

るに、職業の別が、階級に依る生活能へるを制して居る。

制して居る。これを意味する。

若し都市の景観、区分地図を制作するならば、

住居と職場と住居兼職場（職場）と三色に色別し

た地図が、最も基礎的である。次に住

居が更に上階級住居と中階級住居

と下階級住居の三つに小分類され

職場は職業により、高層工場と（オフィス）

に分れ、住居兼職場は高層及び

「カ」は「ア」に属する。かくて都市は次の七種の地区に分れる。

一、上級住宅地帯

二、中級住宅地帯

三、下級住宅地帯

四、工場地帯

五、オーストリア地帯

六、高層店地帯

七、「カ」は「ア」に属する

(職人)
(工業地帯)

都市の中心部を構成するものは、
集合して一つの特色ある地区を構成するものは

右の外には余りない。他のよき
他のよき。他に集合し

これら以外にあり、これらは特色ある一地区を構成

成す。殺量の事。小んは遠くなり。二。あ。ら。う。

都市の群集

一 区域

定型的集会所としての集会的性質
地带別

二 時間

定時的、不定時的、毎日

三 人の種類

市民、旅人、青年

子供、女、成年

四 組織、非組織

五 目的、一致、不一致、明不明

都々のセンターの職集は然りとて市人
 と申すの果田者人又は田者
 生活者によつて形成される。此の
 其の調査は国政然りては此の
 の代表的物面である。此の調査
 不可能の爲に新卒の研究は不
 可成といひかや下身か、都市
 の正當生活は是れなりとの下法な
 い。

車をまゝ、片々人々皆然りである。

同一の場合同一の時刻に集合して片々人々
 に先片り何か目的の共道なりがある。

公園に集まると片々人々も思ふに集合
 以上は目的の共道なりである。

或る場の新體に集まると片々人々も思ふに
 集法とある程度の目的を有して片々

此相互にその目的を積極的に表示してその
 目的達成の爲に協力を求めたりす。

公に表示して片々人々も思ふに社会的
 である。此れが政治的な運動の形をなし

その一團の人の指導的指導の下に
 公共の同一の

我々の降す。群集はかく人々の集合をさう。かくと私等は同一場所同一の時に
作らば、それは統計的群集にして、統一的
的群集にして、発展的群集にして、統一的
り、それは更に革命の團体の組織に
の充ちの量地を定し、片の形に統一
として入る。

かくの如くにして、群集は何時の時代にも何れの
民族にも生れ、これを修め、これを
下達の階級が、群集の形に統一の形に
演ぜ、その形に統一する。

けり、かくして巨大な都市の形に統一する。片の
近代大都市に於いては、集合の形に統一する。片の
その形に生活の地域を限定せしめ、群集形成
の機会を、片の形に統一する。又生活の
に於いては、文化が、その形に統一する。片の
今の大都市に於いては、片の形に統一する。片の
時と處の多し、は、常に統一する。片の
群集は、同一の形に統一する。片の
の形に統一する。片の形に統一する。片の

村集に於いては、群集は、既知の人に、都市群集は、未
知の人に、その形に統一する。片の形に統一する。片の
の形に統一する。片の形に統一する。片の

の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の

都市に於いては、群集の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の

都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の
都市の形に統一する。片の形に統一する。片の形に統一する。片の

群集 / 既知の人と一村落の中心

又 未知の人と一都市の中心

A 平和的

B 同情的

従来はBのBのみを同視して。

群集は他人の^{（軍）}従教ではない。軍令に
応じたり、ニース・フランスの婦人達が銀貨
の群集に加わりたい心理、人に与せたい心理
等は群集の少なりは失脱す。

従来の群集心理は雷同の心理のみを同じ
とし、群集を表象し、群集心理
の研究は群集に加わりたい心理、群集
中心あるもの、心理を研究するべき。

いとし格にてある。

この都市の群集の定まる時について
考へて見よ

- 一 毎日の定まるもの
- 一 毎週又は毎月又は毎年定時に定まるもの

映画館には毎日の群集が定まり、神社の
例祭の群集は年一回、教室には毎朝
に毎月の月給日又はお祭りの期せしむ
形成される。

群集は不定時である。
火事下集まる。群集は不定時である。



これ等の場所は都市の七種の地区の内とこに
 あるべきところか。住居地地区によればこれ等
 の地区の何れかか。浴場と病院と紙
 芝居位のものであろう。これ等は皆土地回りの
 人への集まるべきやがた群集である。幾分固
 定した幾分福利のある人の集まることである。
 毎母娘やかん多量の人の集まる場所は、特
 集の中心に置かれる所か、商店街、商店
 街下である。サービス地帯、商店地帯、
 商店街である。

更に都市の七種の地区の一年又は一日の生活に
 必要とする群集への参加の機会は、何時でも
 あり得る。

都市の式、地帯には群集は毎日形成する
 ところの人の集まる所として、並に都市の
 生活の中心に、都市の中心、人の集まる所
 として、中心地帯である。

次に群集形成の場所をみることにする。

- 一、映画演劇場、球場、競技場、
 - 二、講演場、教会、寺、神社
 - 三、デパート、商店街の街並
 - 四、公園、停車場、浴場、動物園
 - 五、パルク、紙芝居、病院
 - 六、浴場、カネ、図書館
 - 七、火事場、犯罪発生場所
 - 八、政治的市会大会、メーデーのデモ隊
 - 七以外の皆、町内、固定した人の集まる所、
 して設置してある場所である。
- 以上、群集の規模も大抵に示し置かす。



之をいふに後世の人を集合すかかや
知ふべきの場合あり。然るに今人の
措成つて考へて之。

一、年齢階級別による群集

二、職業による群集

三、^{人口}定数の制限又は傾向なき群集

四、居住地区による群集

紙芝居の集まり。群集は小供連である。お祝
盆にお寺に集まつてお祈りは主として老人時に
老婦である。けれども^{一般}他の群集には年齢の
制限や傾向はない。然し都市にあるお祭り
群集に最も多く見られるは青年である。

カフエールも図書館にも教条にも疎略に
も一層多いのは昔年である。統計的比率
以上に昔年は都市を以て目立つて居る
トリープラーの予備隊には工場労働者が多いが、
その他の都市の群集には職業による特色
は乏しく、幾分富の上下が群集の
態に影を以て示すかも知れぬ。高知を
カフエールや高知を演劇場には富の階級の
人か多いである。かくて幾分富の上下に
よって群集を区別する場合がある。これら
は、一般に都市の群集は、あつちの階級
あつちの職業、あつちの年齢に開放的である。

には寧ろ特色あり。

市は安楽な地区での生活に甘んじて居る。

このため、地理的距離を遙かに為し都

心や準都心となす感も少く出掛ける

機も少く、決してなほ相寄りにある。然しや

何れも市の生活は地区内を離れ、都心

や準都心に去掛けるは次第、何れも一

と大傷みである。此すいた傷みも必ずしも

優劣は相寄りの混雑を避けてゐるやうし

又都市に集する他地方の人には経験する

都市生活は殆ど皆この都心及び

準都心の軌跡である。

心付く購買

人の

そこに群集をなして片々共通の目的の
何があるか甚だ明白な場をなすし明白
な目的も有る。

図書館は集まるとして人の共通の目的
を以て目的は讀書する事である。マヤハ
に集まるとして人の共通の目的は娛樂下
である。何かしら停車場に集まるとして人に
道々人送るとして人待ち合つて片々目的を
つとめて片々人として暖をとつて片々人として
目的は色んなものである。汽車を待つて
居る人が骨を凍らしてあつたり又外部に系
されぬ共通の目的である。都市の住民は
はこれ

はこれ

「あいつはエエ」のは書けず、都市の

住民にはそれは迷惑な話です。けれども

時々感嘆の場に出揃って都市の住民もそんな

不景感を^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

経験を^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

生活に^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

戒めな^{見せ}見せしめ、^{自然}自然の

流俗的 俗人の

聖心宿たてありの ~~世間~~ 聖心宿たて一時の
一面的仙人的な接觸 ~~世間~~ 世間であらうと云
ふよりし 都市に於ける生活の荒しき浮世
の多きを為る心なりすも不定の結果を生
ずる場合が多いてありし。かくの如く不実
の結果を屢し包て事大都市の住民は人
の化育に對しゝ疑惑的となすことをおなじ
然しものと堪居くかくの如く ~~世間~~ 世間パーズナリ
その形成の影 ~~世間~~ ^{すは} ~~世間~~ 成りし頃の群衆
に考めし ~~世間~~ 経験 不良を在るんは ~~世間~~ 経験
であらう。

贈答と借財の責任

(一) 人と人の関係が平等の場合、相互に

a. 贈答
b. 借財
c. 贈答と借財

(二) 上下の関係の場合、上より下へ

a. 贈答
b. 借財
c. 贈答と借財

人の力の有無に依りて (一) または (二) が必要。

都市には (二) は公共性が強い他人間には

必要にして (一) a は長年の贈答となり、古くは

c の状態を有す。

今、これでは a についでに b を考慮して見よ

二、あまふ。古とCは経済上の社会と有
(三)は行政上の社会。地方福祉の
社会と有。